

・拔曳固・思結・同羅・僕固の五部が實に九姓と稱せらるべきものなることは、本論に於て諸種の記載に徴して證明したるが如し、また渾なる部は會要も兩唐書地理志對比の結果も共に之を九姓と稱し、掘羅勿を後者に九姓といへるは、上述の如く之が回鶻の九姓の一部なりしに因ると解釋すれば、唐會要の示せる九姓の名目に關して疑を挟み得べきは、その契苾・阿布思・骨崙屋骨の三部にして、之が兩唐書地理志對比の結果に出づる多濫葛・奚結・阿跌の三部と換へらるべきに非るかとの疑問なり、余輩は舊唐書地理志が此等の六州に關して、突厥九姓部落所處、若くは九姓所處と記せるに就きては、同志の編者が或は深く考察を加ふる無く、九姓と緣故深き多濫葛・阿跌・奚結等に對して、漫然九姓なる名を記したるには非る無きかとも疑ふものなれども、その斷定につきては他日別に依據すべき記載を求めて攷究する所に譲らんとす。

二

本論第四節に於て、唐書回鶻傳に回鶻の古き名稱なりと記さるゝ烏紇・烏護等が *Thomsen, Hirth* 氏等の考ふるが如く *Oyuz* の音に應ずべきものなることを論じたりしが、袁紇に就きての見解を遺脱せり、既に烏紇・烏護を以て *Oyuz* と見る以上は、袁紇もまた同様に *Oyuz* を寫せるものなるべきはいふ迄もなきことなるが、袁(*Yuan*)なる文字は康熙字典に唐韻雨元切、集韻羽元切、韻會于元切、並音園と見ゆれど、然も此の字にはまた *on* の音もありしなるべく、之と同音なる園・遠等が國音に別に *on* とよまれ、福州音に *wong, hwong*, 朝鮮音に *wôn* と讀まるゝは其の一證なり、されば袁紇 (*Yuan-ho onkot*) を以て *Oyuz* を寫せるものと見るは不當に非ず、*on*